

目次 会員通信 .....335  
雲南地衣類調査行2007(その5). 巨大カブトゴケ/原田 浩 .....335

### 会員通信 From Members

## 雲南地衣類調査行 2007 (その5) . 巨大カブトゴケ

A field trip for lichen study in Yunnan, China, 2007 (part 5) / by HARADA Hiroshi

原田 浩 (千葉県立中央博物館)

10月18日、維西の街角で蜂の子を売のを見届けてから、麗江に向けて出発した。この地方には広大な平野は無いが、谷は広く、また山岳も比較的急峻ではなく、比較的豊かな農村地帯という印象を受ける(図1)。時

は秋、間もなく米の収穫の時期である。黄金色の水田が広がっていた。

やがて坂をぐんぐん上り峠に近くなると、比較的平坦な土地が現れる。離地坪(Lidiping リーディーピン)

と呼ばれ、97年にも訪れた場所であった。もともとは針葉樹の原生林であったはずであるが、比較的近年に切り倒され、二次林化している。針葉樹の低木に落葉広葉樹が混じる混交林をなしていた。今回の調査の獲物のハリガネキノリ属 *Bryoria* をはじめ、サルオガセ属 *Usnea* (図2A)、フクロゴケ属 *Hypogymnia*、トコブシゴケ属 *Cetrelia* などが、たわわに実るように着生していた。それから忘れてならないのが、樹髪・・・そう、バンダイキノリ *Sulcaria sulcata* である(図2B)。このように低木が多いと、手の届く範囲内で、多量に採ることは可能と思われた。



図1. 維西から麗江へ。離地坪に上る前の農村風景。

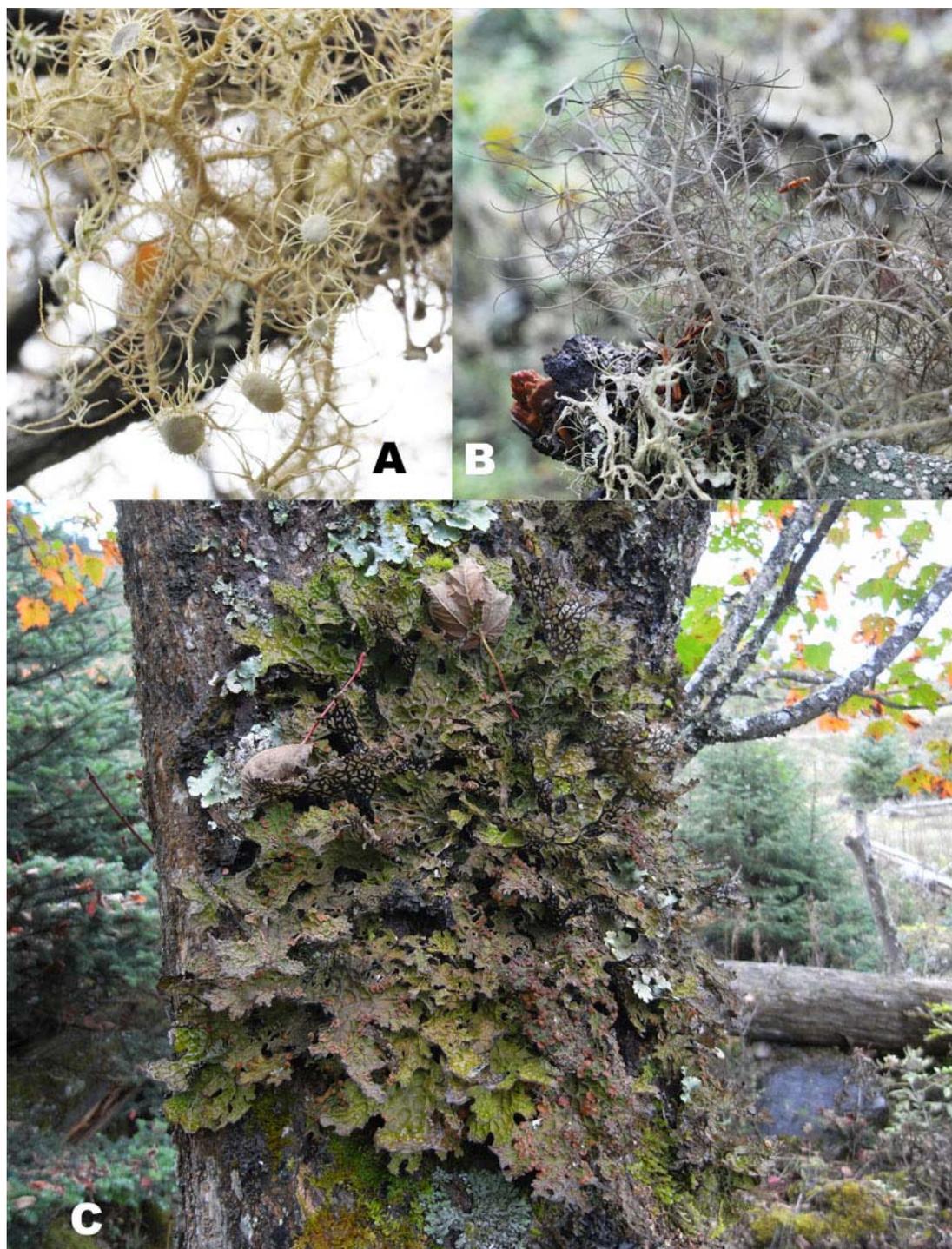


図2. 離地坪の地衣. A, ハナサルオガセ. B, バンダイキノリ. C, カエデの幹に生える巨大なナメラカブトゴケ.

山上を車で移動し、今度は、つい最近まで針葉樹林に覆われていたのではないと思われるほど、大きな切り株や、倒木が散乱した場所に至った。そのような中に、大きな木の残った一角があった。先の地点とは見られる地衣が違い、カプトゴケ科の大きな個体が多数見られる。中でもナメラカプトゴケは巨大で、直径50cm位の幹を覆っているのは見事である（図2C）。カエデの幹に着生しているが、そのカエデが紅葉しはじめ、また、ナメラカプトゴケにちりばめられた赤褐色の子器が彩りを添えていた。

### 今度はトコブシゴケ

離地坪から麗江へ、そこで2泊の後、更に南下し大理（Dali）へ、すぐ西側の蒼山（Cangshanツァンシャン）に車で上る。時間的に余裕が無いので、標高2850mの辺りまで、その付近は松林が広がっていた。あいにくの雨で微小な地衣類を観察することはできなかったが、そ

の代わり大形の地衣類がよく目立つ場所だ。トコブシゴケ *Cetrelia nuda*、レモンゴケ *Nephromopsis pallescens*、ツノマタゴケ属 *Everniastrum*、サルオガセ属 *Usnea* が目立った。中でもトコブシゴケは大きな個体が多く、しかもよく子器を付けているので、一見の価値がある。ハリガネキノリ属は見られなかったが、存分に地衣を楽しむことができた。

蒼山を下り、いつもなら大理に泊まるのだが、今夜は雲龍（Yunlong、ユンロン）まで移動だ。雲の龍、何か期待させるような地名ではないか。ユンロンという響きも良い。・・・しかし王さんはまだ訪れたことがない場所だという。裏を返せば、地衣類の調査にとって興味深い場所、植物学で有名な場所ではないということになる。ドライバーも初めての場所だと言うし、どのくらいの時間がかかるのかもよく解らないようだった。幾つも幾つも山を越え、時々小さな村を過ぎ、そのうち真っ暗にな



図3. 蒼山のトコブシゴケ。松の幹を覆っていた。子器も目立ち、雨に濡れてみずみずしい。



図4. 雲龍での夕食. 左, シロアリタケ. 右, シロアリタケ, 蜂の子, 野菜と肉料理.

り, 更に延々と走り続け, こんなところに町があるのかというほど遠くまで来たというのが率直な印象である.

遅くなったので, まずは腹ごしらえ. やっと見つけた食堂で, まずは食材チェック. 見つけたのはシロアリタケ *Thermatomyces* だった (図4左). シロアリの巣に特異的に生えるキノコで, 多くの種類があるようだが, 雲南で最も好まれるキノコの一つである. 随分立派なのがそろっていた.

今夜は5品 (図4右). 4名の夕食はたいてい, この位

の品数である. シロアリタケの炒め物 (左手前), 油で揚げた蜂の子 (右手前), 野菜2品と肉のスープ. 真ん中には味付け用の唐辛子. それにご飯. ドライバーは蒸留酒を飲んで, 私はビール. 王さんは, 維西で蜂の子がうまいと言った私に答えてくれたのだろう. 何も言わずに, 蜂の子を注文してくれていた.

真っ暗な中を到着した, 雲龍, 果たしてどんなところなのだろう? (つづく)

## ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は, 許諾を受けてください. 詳細は本誌 80号 290ページに.

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 92, pp. 335-338: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 8 December 2008.

日本地衣学会ニュースレター 92号

発行日: 2008年 12月 8日

編集: 原田 浩・木下 薫

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2008 日本地衣学会 (© 2008 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します. 無断転載・無断複写等は固くお断りいたします.